

1 イントロダクション

1-3 ③ 環境ビジョン2050、環境目標2030および2035

当社グループでは、「自然と人が共生する持続可能な社会」の実現に向け、「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「ネイチャーポジティブ」を3つの柱とし、事業活動による「ミニмумインパクト」と「ポジティブインパクト」の同時実現を目指す「環境ビジョン2050」を掲げています。このビジョンのもと、2021年には「環境目標2030」を策定し、その達成に取り組んできました。しかし、5年を経過した現在、気候変動や資源制約などの社会課題は、ますます深刻、かつ多様化が進んでいることから、2026年に「環境目標2030」を見直すとともに、「環境目標2035」を新たなマイルストーンとして設定しました。また、気候変動関連については、2040年度目標を設定しました。

「自然と人が共生する持続可能な社会」を実現する3つの柱

カーボンニュートラル

脱炭素の推進
(GHG排出量の削減)

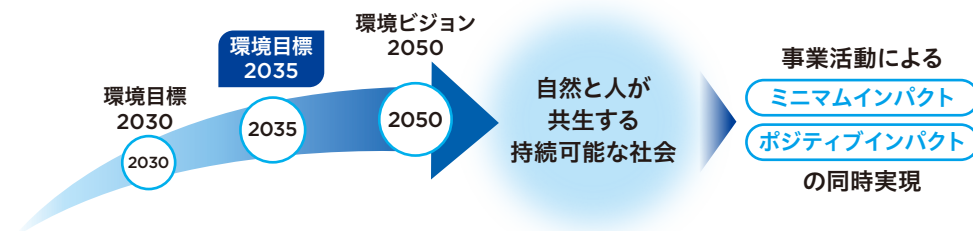
サーキュラーエコノミー

資源循環の拡大
(廃棄物削減、リサイクルの推進)

ネイチャーポジティブ

生物多様性の保全・回復
(持続可能な森林経営、
環境負荷の低減)

中期目標「環境目標2035」を新たに策定



日本製紙グループ環境ビジョン 2050

〈カーボンニュートラル〉〈サーキュラーエコノミー〉〈ネイチャーポジティブ〉

温室効果ガス排出量を実質ゼロにする

- エネルギーの効率的な利用と再生可能エネルギーの利用により温室効果ガス排出量を最小にする
- ステークホルダーとの協働により、バリューチェーンでの温室効果ガス排出量を最小にする
- 森林でのCO₂吸収・固定やCO₂除去技術で残余排出量をオフセットし、カーボンニュートラルにする

生物多様性が保全された持続可能な森林を創出し、資源を調達・供給する

- 多面的な価値を持つ森林を維持・拡大し、森林価値の最大化を図る
- さまざまな製品の原料となる多様な木質バイオマス資源を調達・供給する

循環型社会において豊かな暮らしを支える木質バイオマス資源の利活用を促進する

- 木質バイオマス資源を原料とする多様な素材・製品を提供する
- 社会基盤としての資源循環や製品のリサイクルを促進する

事業活動に伴い発生する環境負荷を最小にする

- 環境に負荷を与える資源の投入と排出を最小にする
- ライフサイクル全体で環境負荷の少ない製品・サービスを社会に提供する

1 イントロダクション

日本製紙グループ環境目標 2030

[🔍 見直し](#)

〈カーボンニュートラル〉〈サーキュラーエコノミー〉〈ネイチャーポジティブ〉

温室効果ガス排出量を削減する

燃料転換と省エネルギー対策で温室効果ガス(GHG)を削減する

- Scope1および2 排出量を54%削減する(2013年度比)
- 燃料転換を加速し、使用エネルギーにおける非化石エネルギー比率を60%以上にする
- 生産および物流における総エネルギー原単位を前年比1%改善する^{※1}
- モーダルシフト化の推進等により、紙・板紙事業における国内製品輸送時の温室効果ガス排出を2020年度比で23%削減する^{※2}
- **Scope3 排出量 カテゴリー3を64%、カテゴリー4を21%削減する(2018年度比)^{※2}** **NEW 新設**
- ステークホルダーとの協働により、Scope3排出量を削減する

資源の創出と循環利用を促進する

森林資源の保護育成と生物多様性に配慮した森林経営を推進する

- 海外植林においてCO₂固定効率を2013年比で30%向上する
- 国内外全ての自社林で森林認証を取得・維持する
- 使用する全ての木質バイオマス資源のトレーサビリティを確保し、持続可能性を確認する
- 国内森林資源の活用を推進する

資源の循環利用を促進する

- 資源の循環を促進するリサイクルシステムの構築に取り組む
- 古紙利用技術の開発により、これまで再資源化が困難であった **未利用古紙を17,600 t/年活用する** [🔍 見直し](#)
- **古紙利用率を57%以上にする^{※2}** **NEW 新設**

環境負荷を低減する

製造工程で発生する環境負荷を削減する

- **大気汚染物質を30%以上、水質汚濁物質を20%以上削減する(2018年度比)^{※3}** [🔍 見直し](#)
- 国内生産拠点における産業廃棄物の再資源化率を98%以上にする
- ライフサイクル全体で環境影響の少ない製品・サービスを社会に提供する
- **取水からの水使用量を10%以上削減する(2018年度比)^{※3}** **NEW 新設**

日本製紙グループ環境目標 2035

NEW 新設

温室効果ガス排出量を削減する

燃料転換と省エネルギー対策で温室効果ガス(GHG)を削減する

- Scope1および2 排出量を60%削減する(2013年度比)
- Scope3 排出量 カテゴリー3を67%、カテゴリー4を34%削減する(2018年度比)^{※2}

資源の創出と循環利用を促進する

- 古紙利用技術の開発により、これまで再資源化が困難であった
未利用古紙を22,600 t/年活用する

環境負荷を低減する

- 取水からの水使用量を15%以上削減する(2018年度比)^{※3}
- 大気汚染物質SO_xを60%以上、NO_xを40%以上、ばいじんを35%以上、水質汚濁物質を25%以上削減する(2018年度比)^{※3}
- 国内生産拠点における産業廃棄物の再資源化率を98%以上にする

日本製紙グループ環境目標 2040

NEW 新設

温室効果ガス排出量を削減する

- Scope1および2 排出量を65%削減する(2013年度比)

※1 省エネ法対象企業 ※2 日本製紙 ※3 国内グループ企業